

7/21 神

地震動

大飯再計算に問題

規制委「説明受け議論」

原子力規制委員会は20日の定例会合で、過小評価の可能性が指摘された関西電力大飯原発の基準地震動（耐震設計の目安となる揺れ）について、指摘を受けて行った再計算に問題があるとして、計算した原子力規制庁から次回以降、詳しい説明を受けることを決めた。

規制委は13日の前回会合で、再計算結果を踏まえ、基準地震動を見直す必要はない

と判断したが、計算手法に関する規制庁の説明が不十分だったという。田中俊一委員長は20日の会合で「規制庁はデータをそろえて説明してほしい。その上で議論したい」と述べた。

田中委員長は会合後の記者会見で、再計算について「私が見て、再計算については、もっとが無理筋を指示した。もっと簡単に計算できると誤解した。計算は前提が成り立たず、判断根拠にならない」と述べた。

また、再計算結果を了承したことを「拙速だった。反省をしている」と陳謝。審査で了承済みの基準地震動を見直す必要があるかについては、審査での議論などを踏まえて「必要はないと思う」との見方を示した。

過小評価は前委員長代理の島崎邦彦・東京大名誉教授（地震学）が指摘。規制庁は島崎氏の提案に従い、別の計算手法を取り入れて再計算を実施。計算過程で断層面積などの設定に矛盾が生じたが、無理な仮定を重ねて計算した結果、審査で了承済みの最大

加速度856ガを下回る644ガを算出したという。